

○事業所名	GrabityLiNE		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 1日		令和7年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数) 8人
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 1日		令和7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心感を持って通所でできおり、通所を楽しみにしている様子が多く見られる。	子ども一人ひとりの気持ちや特性に配慮し、安心して過ごせる環境づくりを大切にしている。 日々の関わりの中で、無理のないペースで活動に参加できるよう支援を行い、通所に対して前向きな気持ちを持てるよう意識している。	今後も、子どもの気持ちや変化を丁寧に把握しながら、安心感を基盤とした支援を継続していく。 通所を楽しみにできる環境を維持しつつ、成長につながる活動内容の工夫を重ねていく。
2	支援計画に基づいた支援や日々の関わりについて、保護者から一定の理解と評価を得ている。	支援計画の内容や支援の意図について、保護者へ丁寧に説明し、日々のやり取りを通して情報共有を行っている。 子どもの様子や小さな変化についても伝えることで、支援への理解と信頼につながるよう努めている。	今後は、支援の狙いや成果について、より分かりやすく保護者に伝える工夫を行っていく。 引き続き、保護者とのコミュニケーションを大切にし、支援の質の向上につなげていく。
3	日常の支援や相談対応が丁寧に実行されており、保護者との信頼関係が構築されている。	送迎時や連絡ツール等を活用し、日常的に保護者とコミュニケーションを取ることを心がけている。 相談や意見についても真摯に受け止め、安心して相談できる関係づくりを意識している。	今後も、保護者との対話の機会を大切にし、信頼関係の維持・向上を図っていく。 必要に応じて面談等の機会を設け、より丁寧な情報共有を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向けの研修や家族支援プログラムの実施が十分に行えていない。	これまで日々の個別対応や情報共有を重視してきたため、研修やプログラムとして体系的に実施するまでに至っていないかった。 また、保護者の負担や参加のしやすさを考慮する中で、実施方法の検討が十分でなかったことも要因と考えている。	今後は、短時間や資料配布など参加しやすい形での研修や情報提供の機会を検討していく。 子どもへの関わり方や発達理解につながる内容を中心に、家庭で活かせる支援の充実を図っていく。
2	事業所内で完結する活動が多く、事業所外での活動や地域との関わりが少ない。	児童の安全面や特性への配慮を優先し、事業所内での活動を中心に支援を行ってきたことが要因と考えている。 外部活動に必要な体制や準備についても十分に整えられていなかった。	今後は、安全面に十分配慮したうえで、近隣施設の活用や地域資源との関わりなど、無理のない範囲で事業所外活動を検討していく。 児童の経験の幅を広げる支援につなげていく。
3	避難訓練や安全管理に関する取り組みが、保護者に十分に伝わっていない。	訓練自体は実施していたものの、その内容や目的を保護者へ十分に発信できていなかった。 日常支援を優先する中で、共有の機会が不足していたことが要因と捉えている。	今後は、避難訓練等の実施状況や安全対策について、書面や連絡ツールを活用して分かりやすく共有していく。 保護者に安心して利用していただけるよう、情報発信の充実を図っていく。